

なかよし

てんどうちゅうぶしょうがっこう
天童中部小学校

がっきゅう
いちよう学級

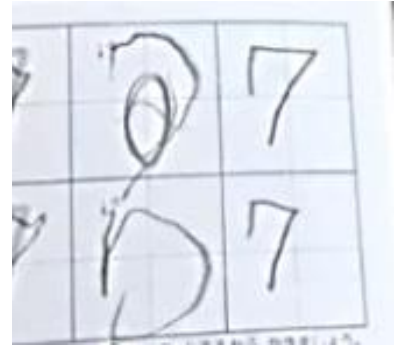
R3.12.10

No.28

伸びをよろこぶ・よろこんでくれることを喜ぶ

先日、3年生のAさんが「T先生に用があって来ました。」と、私の教室を訪ねてくれました。私は、Aさんが1年生の時の担任でした。

「先生、これ見てください。」と見せてくれたのは、1年生の時に学習した『ひらがなすうじワーク』でした。「ここ見て、見て。」と数字の「7」を練習する欄を指さしました。書かずに残っていた欄に、3年生になったAさんが、「7」と書き込んでいました。写真を見ていただいてもわかるように、文字のバランス、筆圧等、まるでお手本のような書きぶりです。「わあ、すごいねえ。上手になったねえ。」と言いたかったのですが、そこはちょっと飲み込んで、次のような会話が続きました。



○「えっ！これって…、もしかして…」（口に手をあて、目を大きく開いてびっくりした表情でAさんの顔を見ました。）

★Aさんは、にこにこしながら大きくなってきました。

○「これって、どう？」と静かに尋ねました。

★にこにこしながら「上手になったと思う。」

○「ほんとだあ！私もそう思う！」「すごいねえ。」「どの辺が？」

★「1年生の時はふにゃふにゃしてたけど、今は、ここがかっくんってなってるし、かっこいいと思う。」

○「ほんとだあ！私もそう思う！」「なんで、こんなにかっこよく書けるようになったのかなあ？」

★しばらく考えて「練習したからかな…。」

○「なるほどねえ。練習してよかった？」

★「うん、よかった。だって、かっこよく書けるようになったから。」

○「それは、よかった。なんか、とてもいいものを見せてもらったなあ。わざわざありがとうね。ところで、どうして、見せに来てくれたの？」

★「だってね、これを書いていたら先生が、『これ、T先生が見たら喜ぶだろうなあ…』って言ってたから。」

○「そうだったんだ。ほんとううれしいな。こんなに力つけたんだね。うれしいね。」とグータッチをしました。



付き添いで来ていたBさんとも、グータッチをしました。記念の写真を撮らせてもらいました。教室の扉の所に、二人きちんと並んで、明るい声で「失礼しました。」と言って、やや小走りで戻って行きました。

「自分の伸びがわかって、喜んでいるところ」「どこがいいのかを具体的に自分の言葉で表現できること」「なぜよくなったのかの訳を考えることができること」「自分の伸びを、いっしょに喜び合いたいという気持ちがあること」など、「7」の数字の裏側にあるAさんの育ちに感動すら覚えました。

Aさんは、T先生の「T先生、喜ぶだろうな。」というつぶやきを聞いて、即「行ってくる！」と教室を出たそうです。担任の先生が、このような展開になると予想していたかどうかはわかりませんが、本人も、また私たち担任団も、Aさんの成長を改めて知ることとなりました。チームで支援・指導していることのよさを感じる場面にもなりました。

子どもたちは、日々、伸びています。ありがたいことです。